

# 令和6年度全国学力・学習状況調査結果の分析について

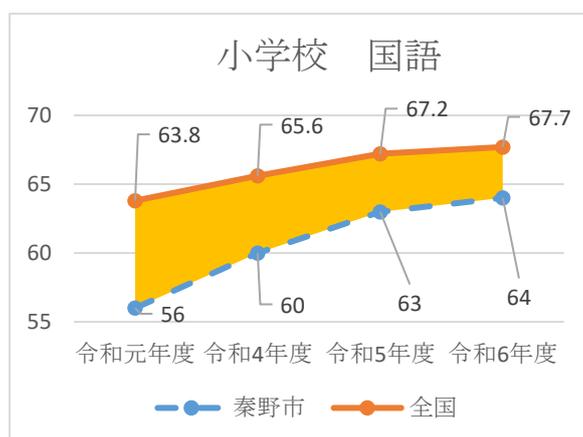
秦野市教育委員会

秦野市では、児童生徒の学力や学習状況に関して、継続的な検証改善サイクルの確立による授業改善を目的として、文部科学省「令和6年度全国学力・学習状況調査」を実施しました。秦野市立小中学校の調査結果概要をお知らせいたします。

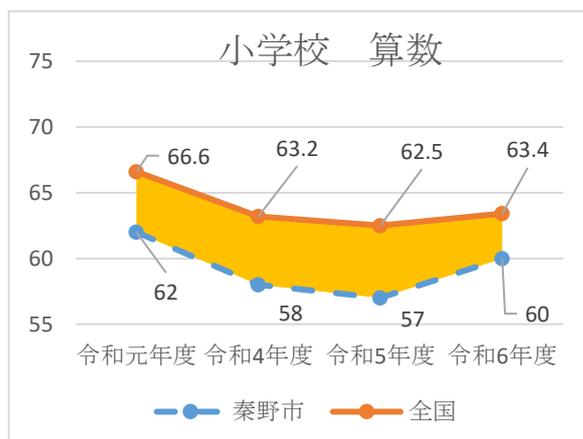
## 1 小学校6年生の調査結果の概要(単位：%)

(1) 各教科の正答率等について ※県及び市の平均正答率は、整数値で国から提供

小学校	国語			
	令和元年	令和4年	令和5年	令和6年
秦野市	56	60	63	64
神奈川県	61	65	66	67
全国	63.8	65.6	67.2	67.7



小学校	算数			
	令和元年	令和4年	令和5年	令和6年
秦野市	62	58	57	60
神奈川県	67	64	63	64
全国	66.6	63.2	62.5	63.4



(2) 結果の分析について

ア 国語については、知識・技能の正答率が高い傾向にあります。また、知識・技能、思考・判断・表現に大きな差は見られず改善傾向にあります。さらに、書くことについても改善傾向が見られ、記述式問題での無解答率も減少傾向にあります。一方、作品を読んで心に残ったことについて、根拠を明確にして要約するような設問の無解答率が高く、他の問題に比べ正答率が低い傾向となりました。文章から内容の全体像を読み取り、根拠を明確にして考えを記述する活動を重点的に行うことで、改善していくと見ています。

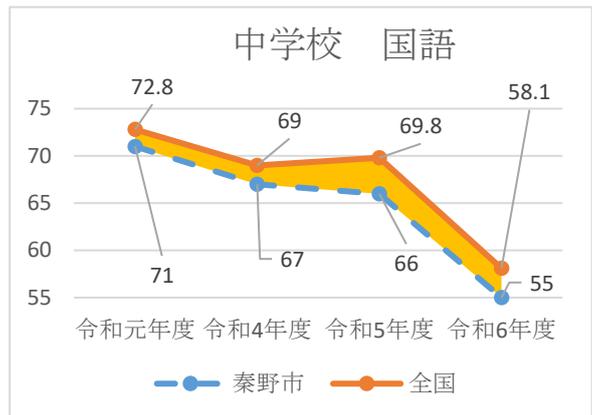
イ 算数についても知識・技能の正答率が高い傾向にあります。また、記述式の設問の無解答率が低く、改善傾向が見られ日々の取組の成果が見られます。一方、図形の領域に課題が見られ、公式の意味や性質について本質的に理解することで、正答率の改善が期待されます。

ウ 国語、算数に共通して、知識・技能を活用し、解答する応用的な考えを問う設問の正答率が低い傾向にあります。国語、算数を中心に、日々の授業で知識として得たことを、身近な生活や社会について関連させた学習に取り組んでいくことで正答率が改善され、生きて働く知識・技能や思考力・判断力・表現力がともに育まれていくと分析しています。

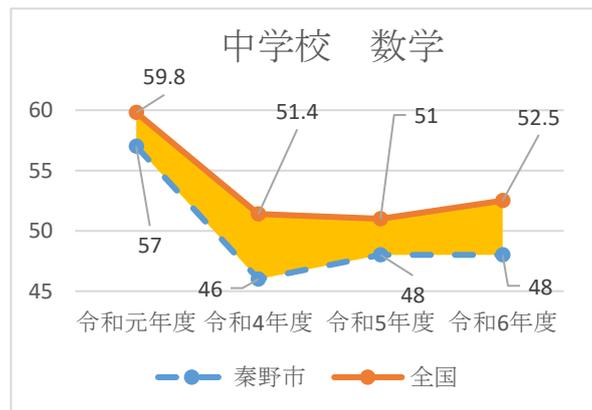
## 2 中学校3年生の調査結果の概要 (単位：%)

### (1) 各教科の正答率等について

中学校	国語			
	令和元年	令和4年	令和5年	令和6年
秦野市	71	67	66	55
神奈川県	73	69	70	59
全国	72.8	69.0	69.8	58.1



中学校	数学			
	令和元年	令和4年	令和5年	令和6年
秦野市	57	46	48	48
神奈川県	60	53	52	54
全国	59.8	51.4	51.0	52.5



### (2) 結果の分析について

ア 国語については、知識・技能の正答率が高い傾向にあります。また、話すこと・聞くことの領域の設問では、県・国の正答率を超えるものもあり、日々の取組の成果が見られます。一方で、記述式の設問では、目的に応じて必要な情報に着目して要約したり、自分の考えが伝わる文章になるように表現の効果を工夫したりすることに課題が見られます。資料から必要な情報を読み取り、根拠を明確にして考えを記述する活動を重点的に行うことで、改善していくと見ています。

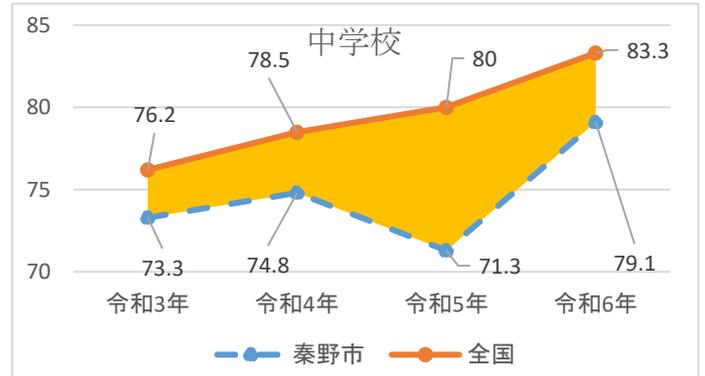
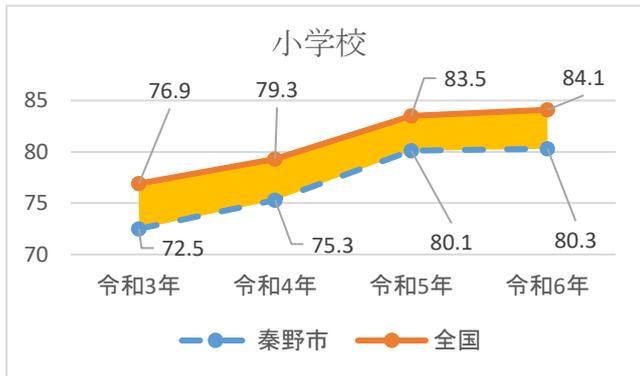
イ 数学についても、知識・技能の正答率が高い傾向にあります。一方で、小学校と同様に図形の領域に課題が見られます。公式の意味や性質について本質的に理解し、日々の学習と身近な生活や社会について関連した学習に取り組んでいくことで、理解が深まり改善が期待されます。

ウ 国語、数学に共通して、知識・技能を活用し、解答する応用的な考えを問う設問の正答率が低い傾向にあります。また、記述式問題での無解答率もやや高い傾向にあります。国語・数学ともに、日々の授業で知識として得たことを、身近な生活や社会について関連させた学習で、自分の考えを表現していく経験を積み重ねることで、記述式の回答と併せて正答率が改善され、思考力・判断力・表現力もともに育まれていくと分析しています。

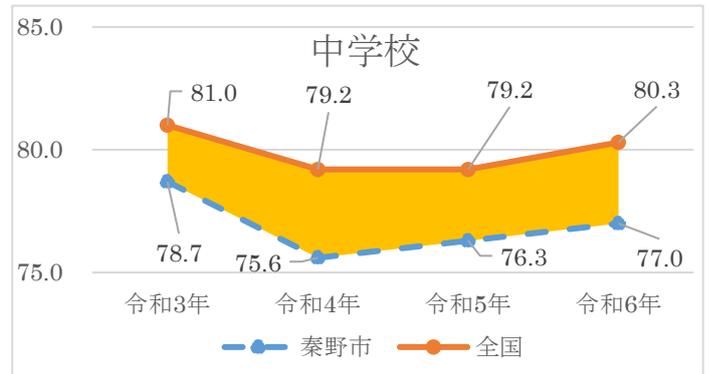
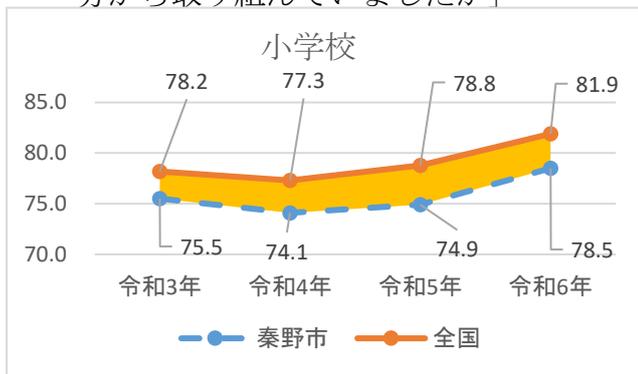
### 3 質問紙調査結果の概要 (単位：%)

#### (1) 非認知能力に関すること

ア 「自分には、よいところがあると思いますか」

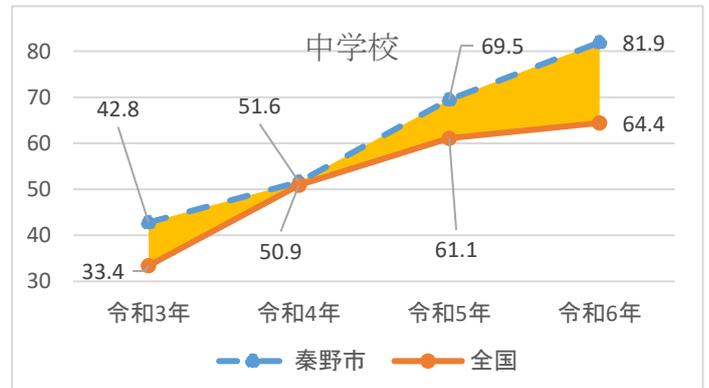
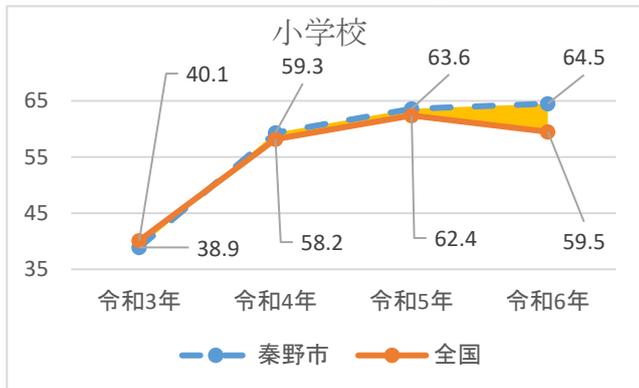


イ 「5年生(中学は2年生)までに受けた授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいましたか」



#### (2) ICT機器の活用に関すること

ア 「5年生(中学は2年生)までに受けた授業で、PC・タブレットなどのICT機器を、どの程度使用しましたか」 ※週3回以上活用していると回答した割合



#### (3) 結果の分析について

ア 小・中学校ともに、学力の基盤として着目され非認知能力の指標ともなる「自分には、よいところがある」、「課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組む」ことについて」の数値が向上しており、小中一貫で連携し、全市的に取り組んでいる学びの基盤プロジェクトによる授業改善等の工夫の成果と見ています。

イ ICT機器の活用については、昨年度に増して小中学校とも全国平均を大きく上回っており、授業での有効活用の結果が見られます。引き続き、ICT機器を活用し「個別最適な学び」と「協働的な学び」の実現に向けた授業改善を推進します。

#### 4 教育水準の改善向上に向けた市全体の方向性（○印は具体策）

本市では、各校と協働して教育水準の改善向上を目指しており、新たな検証改善サイクル確立の観点から、令和6年2学期より以下の3つの取組を強化しています。引き続き読書活動を中心として家庭・地域の皆様にもご理解とご協力をお願いいたします。

##### (1) 授業力向上等の取組

児童生徒の学習意欲の基盤となる非認知能力に着目した授業改善等の取組となる学びの基盤プロジェクト等の取組を中心に、今後も教育活動全体を通じて、「ほめて、認めて、伸ばす」子どもたちへの関わり方を大切にしていきます。

##### ア 学びの基盤プロジェクト

児童生徒の非認知能力、学力を経年で調査し児童生徒の成長記録のエビデンスに基づいた質の高い授業や教育活動の普及を目指します。

##### イ CBTチャレンジプロジェクト

各校より推薦のあったグローバルリーダー（世界と秦野をつなぐリーダー）による新しい学力観に基づいた市統一の問題を作成し、タブレットを利用した新しいテスト手法を導入することで、これからの時代に求められる新たな学力観に基づいた授業改善につなげます。

##### ウ 学力向上推進研究委託

各校の主体性を生かした学力向上に向けた研究を行います。

##### エ 学びのステップアップ講座

参加を希望する教職10年未満の教員を対象に、年間を通じて指導主事と協働して授業力向上を目指しています。

##### (2) 新たな学びプロジェクトの強化

本市では、現行の学習指導要領が目指す「主体的・対話的で深い学び」を実現するため、地域や大学・民間企業と協働した新しい視点での教育活動として、新たな学びプロジェクトを推進しています。

##### ア NIE（新聞を活用した教育）実践研究

新聞協会と連携し新聞記事を活用した読解力・表現力を育成する取組を進めます。

##### イ よむYOMUワークシート

新聞社との連携による新聞記事を活用した読解力育成の取組を進めます。

##### ウ 寺子屋方式による無償の放課後学習支援事業

放課後に公共施設等を活用した無償の学習支援事業を公民合わせて、市内18箇所で展開しています。

##### (3) 読書活動の推進

##### ア はだのっ子よむよむDAYの実施

毎月第一月曜日を市内全校で読書活動を推進するよむよむDAYとし、朝読書や読み聞かせ等各園校並びに家庭等での読書活動の習慣化を目指しています。

##### イ OMOTAN読書レター

児童生徒が読書に親しみ、多くの本と出会う機会を作るとともに、読書活動に励む児童、生徒を褒め、認める取組を進めています。